

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	5-1-1		事業名	林間学校
担当	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課 那須野 恒 211-3872			
全体計画（当初）				
事業内容	昭和52年度から実施している林間学校事業は、市内の自然に恵まれた小学校や青少年山の家、定山溪自然の村などを会場として、夏休みと冬休みに市内の小学3年生から6年生までの児童約1,600人がテント泊や野外炊事、川上りや雪中登山などさまざまな野外活動を行っている。 指導には主に市内の小中学校の教職員により組織された札幌市野外活動教育研究会（通称「野活研」）のメンバーら200余人があたっており、野外活動を通して大きな成果を上げている。 障がいのある児童の当該事業への参加希望が多く寄せられていたことから、当該児童を参加対象として積極的に取込んでいくための体制を確立するため、平成12年度冬から試行事業として実施し、平成14年度からはモデル事業として実施。平成18年度からは林間学校本体に障がい児と健常児と一緒に活動するコースを新設。		＜年度別の事業内容＞	
			【16年度】障がい児を対象とした「森はともだち」、健常児と障がい児と一緒に活動するプログラム「冬はともだち」をモデル事業としてそれぞれ実施。 【17年度】健常児と障がい児と一緒に活動するプログラム「森はともだち」、「冬はともだち」をモデル事業として実施。 【18年度】夏季及び冬季林間学校のコースに障がい児参加対象のコースを新設。	
事業内容（量・場所・規模等）	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）	
	「森はともだち」モデル事業 ・実施日：16年8月28日、9月4日（日帰り）、11、12日（宿泊）（1泊4日） ・参加者：障がい児15人（男10人、女5人） ・指導者：25人（野活研19人、札特連2人、学生補助4人） ・プログラム：仲間作り、野外遊び、野外炊飯、キャンプファイヤー ・事業費：653千円  「冬はともだち」モデル事業 ・実施日：16年12月4、18日（日帰り）、17年1月11、12日（宿泊）（1泊4日） ・参加者：39人 障がい児12人（男9人、女3人） 健常児 27人（男13人、女14人） ・指導者：28人（野活研21人、札特連3人、学生補助4人） ・プログラム：仲間作り、チューブ滑り、かんじきハイク、キャンプファイヤー ・事業費：854千円		「森はともだち」モデル事業 ・実施日：17年7月16、23日（日帰り）、27、28日（宿泊）（1泊4日） ・参加者：42人 障がい児12人（男7人、女5人） 健常児 30人（男15人、女15人） ・指導者：28名（野活研・札特連24名、学生補助4名） ・プログラム：仲間作り、野外遊び、野外炊飯、キャンプファイヤー ・事業費：1,064千円  「冬はともだち」モデル事業 ・実施日：17年12月10、17日（日帰り）、18年1月12、13日（宿泊）（1泊4日） ・参加者：42名 障がい児12人（男9人、女3人） 健常児 30人（男17人、女13人） ・指導者：28人（野活研・札特連24人、学生補助4人） ・プログラム：仲間作り、チューブ滑り、かんじきハイク、キャンプファイヤー	
事業内容（量・場所・規模等）	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）	
	森はともだち5・6年コース ・実施日：18年7月8、15日（日帰り）、28、29日（宿泊）（1泊4日） ・参加費：13,800円/人 ・定員：42人（通常学級児童30人、特殊学級児童12人） ・指導者：25人（野活研ほか） ・プログラム：仲間作り、野外遊び、野外炊飯、キャンプファイヤー ・事業費：440千円  冬はともだち5・6年コース ・実施日：18年12月9、16日（日帰り）、19年1月5、6日（宿泊）（1泊4日） ・参加費：13,800円/人 ・定員：42人（通常学級児童30人、特殊学級児童12人） ・指導者：25人（野活研ほか） ・プログラム：仲間作り、チューブ滑り、かんじきハイク、キャンプファイヤー ・事業費：440千円		モデル事業の実施によりプログラム・指導体制等を検証し、18年度から林間学校事業における新たなコースとして位置づけ実施する。  課題 特殊学級児童の受入れ範囲（障がいの程度、学年等）の拡大要望が想定される。	
19年度以降の方向性・事業の予定				
林間学校本体のコースとして定着させていく。				

